

よきことを、よきひとへ。  
被災地復興に取り組む人のための業界新聞  
http://www.rise-tohoku.jp/  
発行所 NPO法人 HUG  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-10-9-8F  
http://www.h-u-g.jp e-mail: info@h-u-g.jp

# 東北復興新聞

無料 第8号  
月2回発行  
創刊 2012年(平成24年)1月16日 月曜日

2012年(平成24年)5月14日 月曜日

## 3県がれき処理進捗12.3%

### 広域処理162万トンに道筋

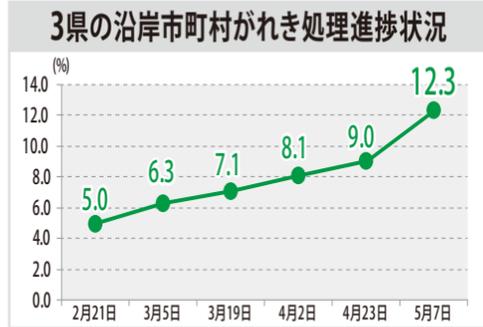
環境省は岩手、宮城、福島3県の震災がれきについて進捗を発表。処理率は12.3%となり初の1割を超えた。2014年3月末までの処理完了の政府目標達成は未だ不透明だが、徐々に他県による広域処理も進み始め、がれきを土手にした防潮林整備等がれき再活用の取り組みも開始している。

発表によると5月7日時点の進捗は、岩手県で55万9千トン(11.7%)、宮城県で203万4千トン(12.9%)、福島県で17万2千トン(8.5%)。自前の焼却施設を持つ自治体での処理が進む一方、原発周辺の双葉郡5町で処理作業が進んでいない福島県は低い進捗率となった。

広域処理においては、政府は3月にまだ受け入れ表明をしていない35道府県および10政令市に対し受け入れ要請文書を提示。4月の発表によると富山県、石川

広域処理の進捗状況	
受入中もしくは受入表明(計約140万トン)	9都道府県 8政令市 東京都、神奈川県、群馬県、静岡県、青森県、秋田県、山形県、埼玉県、大阪府、川崎市、横浜市、相模原市、静岡市、浜松市、さいたま市、堺市、大阪市
受入検討量について具体的な回答(約22万トン)	3県1政令市 富山県(1市2組合)、石川県(2市)、山梨県(4市町村4組合)、北九州市
道府県のうち受入自治体名の具体的な回答	6府県 新潟県(5市)、岐阜県(19市町村、3組合)、滋賀県(3市1組合)、京都府(4市町村)、鳥取県(1市)、福岡県(1市1組合)
受入方針等に具体的な回答	8道県4政令市 北海道、茨城県、栃木県、千葉県、愛知県、三重県、兵庫県、島根県、千葉市、新潟市、京都市、神戸市

県、山梨県および北九州市から計22万トンの受け入れ検討の具体的な回答があった。既に受け入れを表明している9都道府県8政令市の140万トンと合わせ162万



トンの広域処理が見えてきた状況。岩手県には目標達成に必要な県外処理量である約57万トンを上回る受け入れ数字が示され、期間内での処理完了の道筋がたつた形となった。

### がれき再活用 大槌で防潮林の土台へ

4月30日、岩手県大槌町は、がれきを土台に人工林を植樹して防災林とする「いのちを守る森の防波堤」計画の植樹会を横浜、ゴムとともに実施した。同町の小槌川沿いの約750平方メートルに約3千本の苗木を植え、約4トンのがれきを埋められた。処理率がまだ2.8%と低迷する大槌町にとって、がれき処理の促進とともに、復興計画でうたった「海の見える美しいまち」の復興計画で散歩したくなるこだわりの

**数字から見る被災者**

- ① 応急仮設住宅戸数
- ② 借り上げ民間賃貸住宅・入居戸数
- ③ 県外への避難者数

岩手県	宮城県	福島県
① 13,984戸	① 22,095戸	① 16,695戸
② 3,613戸	② 26,050戸	② 25,532戸
③ 1,575人	③ 8,462人	③ 62,736人

※①5月1日現在、国土交通省調べ ②5月8日現在、③4月5日現在、ともに復興庁調べ

### 被災地社会的起業促進事業 イベント続々本格始動

被災地における起業と雇用創出を目的にした内閣府の「復興支援型地域社会雇用創出事業」が本格化している。委託団体のひとつであるNPO法人石巻復興支援ネットワークは、「やっぺすー起業支援ファンド」として起業支援事業を展開し、5月9日に説明会を実施した。事務局の山口智大さんは「震災以降行ってきた地域貢献活動を本格化させた」とする参加者が多かったと語り、本事業が草の根活動の事業化を後押しする可能性を示唆した。

### 環境省 復興ビジョン策定 「三陸復興国立公園」を核に新たな取り組み

環境省は5月7日、東北地方太平洋沿岸部における復興に関する取り組みの方向性をまとめた「復興ビジョン」を発表した。

グリーン復興プロジェクトと銘打った具体的な取り組みの核となるのは、現在の陸中海岸国立公園などを含めた東北沿岸部の自然公園を再編成して創設する三

陸中復興国立公園。北は青森県八戸市の蕪島から南は宮城県女川町の牡鹿半島までの区域で、自然に加え地域の暮らしや文化にも光をあてる新たな取り組みで地域の魅力をアピールしていく。

国立公園周辺部の里山・里海、集落地においては、地域ごとをフィールドミュージアムとして位置づけ、環境フレンドリーな設計のもと各種施設を整備していく。また自然環境や地域の暮らしを楽しむ旅としてのエコツーリズムの推進や、地域の人々や震災の痕跡などを結ぶ道としての長距離自然歩道「東北海岸トレイル」を整備する方針も盛り込まれ、東北への観光客誘致による復興への貢献も目指すものとなった。

- グリーン復興プロジェクトの内容**
- ① 三陸復興国立公園の創設
  - ② 里山・里海フィールドミュージアムと施設整備
  - ③ 復興ツーリズム
  - ④ 東北海岸トレイル
  - ⑤ 森・里・川・海のつながりの再生
  - ⑥ 持続可能な社会を担う人づくりの推進
  - ⑦ 地震・津波による自然環境への影響の把握

三陸復興国立公園は来年度までに計画書が作成される予定だ。また自然環境や地域の暮らしを楽しむ旅としてのエコツーリズムやトレイルの整備も同様の期間で行われる予定だ。

**東北の復興に向けた挑戦をともに仕掛けていく起業家を応援します。**

NPO法人ETICは、これまで復興支援に取り組むリーダーを支える「右腕派遣事業」に取り組み、97名以上(予定を含む)の人材を派遣しています。東北のリーダーや右腕のネットワークを土台に東北での新たな起業・創業を応援します。

**みちのく起業** **検索**

**募集**

「みちのく起業」第一期ファンド募集中  
支援金や様々な機会提供あり  
締切：6月7日(木)まで  
詳しくはWEBへ

特定非営利活動法人 ETIC.(エティック)  
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMIビル4階  
TEL:03-5784-2115 FAX:03-5784-2116 E-mail: info.kigyo@michinokushigoto.jp  
http://www.michinokushigoto.jp/kigyo/

### リーダーズインタビュー

#### Q・これまでの活動は？

昨年4月に石巻でがれき処理ボランティアの受け入れを他の団体と協力して開始。これまでに、2万名のボランティアで1万トンのがれきを片付けた。その後、避難所から仮設住宅への引越し支援、個人商店の再開支援等、都度現地のニーズにあわせて活動を行ってきた。

昨年9月以降は「復旧期」を終えた「復興期」と捉え、観光を主とした「石巻元氣トリップ」をEISと協同して月2本開催。また遠隔から復興を支援したい人が地元商品を購入できる「Yahoo!復興サポートメント」石巻支部の運営も行っている。

福島県では、ボランティア、県

#### 廃校となる小学校跡地を利用し 復興の新たな拠点を



いじちりょう 伊知地亮さん  
特定非営利活動法人「ア・ア・ア」理事  
復興庁ボランティアセンター  
公益民権擁護推進制作調査官

市と除染活動を4月に行った。除染と言っても落ち葉拾いで、作業者の被ばく量もわずかだと実証された。除染ボランティアの是非が議論になっているが、大規模な除染活動とひとことけりせず、影響を踏まえ、やるべきだと考えている。

福島県には、県外に避難できないスペース、地域の商品を販売する市場等を入れて、地域復興の拠点としたい。被災沿岸部で廃校が決まっている学校は他に50校程度あり、同様の課題を持つ地域に対するモデル事業にしていきたい。

#### Q・これからの活動は？

廃校予定の石巻市内の小学校を利用して、復興複合施設を開く計画を立てている。この施設には、自治体のニーズをふまえて、宿泊設備、子どもたちの遊び場、地域の交流

#### Q・復興に大切なことは？

過疎化などの元からあった問題の解決と、地域の発展のため、子育てしやすいまちづくりをして、地域に子育て世代を積極的に呼び込むことが最も重要と捉えている。公園等の遊び場や教育環境、保育施設の整備など、大胆な発想で手を打って行く必要があるだろう。

私たちは、震災直後から一貫して「こたわらない」支援を意識してきた。がれき処理が得意だからと言ってそれに固執するのではなく、信頼関係を築き次に求められることをくみ取り、地域に寄り添った活動を行う。これからもこの姿勢で取り組んでいきたい。

## 2分でわかる! NEWS ダイジェスト

### 4月14日~5月9日

**政策**  
**岩手県、雇用創出助成拡大**  
 岩手県は、「雇用創出助成金」の対象を計45事業へ拡大することを示した。1年以上の雇用契約につき、一人当たり3年間で最大225万円支給。

**生活・まちづくり**  
**いわき市、費用補助で観光推進**  
 いわき市は、県外からの観光客数回復のため、旅行者を対象に上限ありで旅行費用を補助する方針を決めた。事業費として約1億1500万円を割く。

**産業復興**  
**福島県内、新たに3特区認定**  
 国は、福島県から申請された「産業復興投資促進特区」「保健・医療・福祉特区」、会津若松市から申請された「復興推進特区」を認定した。

**産業復興**  
**宮城県内、IT特区を追加申請**  
 宮城県と17市町村は、既に認定済みの「民間投資促進特区」の対象を、コルセンターを含むIT関連企業にも広げるよう新たに申請した。

**産業復興**  
**経済産業省、再生可能エネルギー活用したスマートコミュニティーの導入促進を目的とした補助金の対象に被災3県8自治体を選んだ。**

**漁業**  
**「復興企業キャピタル」設立**  
 東北共益投資基金は、基金内に「復興起業キャピタル」を設立。復興に繋がる経済の中核を担う事業へ1件につき最大500万円を投資する。

**復興企業キャピタル**  
**福島県、新工業団地の調査地決定**  
 福島県は、産業や雇用を含む復興に向けた新工業団地造成の調査を新たに県内6市町村を対象に実施することを決めた。

**復興企業キャピタル**  
**「企業立地補助金」応募多数**  
 福島県が、企業誘致を目的とした200億円を上限とする「企業立地補助金」に県外から299件の応募があったことが28日にわかった。4000人の雇用創出を見込む。

**原発・放射能**  
**健康管理検査、国が全面支援表明**  
 福島県と福島医大の進める県民健康管理検査に対し、細野環境相は財政面にとどまらず、全面的に支援する方針を表した。

順位	区分	項目
1	暮らし	被災した事業所の復興や新たな事業所の進出による雇用の場の確保
2	暮らし	被災者が安心して暮らせる新たな住宅や宅地の供給
3	暮らし	震災による離職者の再就職に向けた取組
4	安全	防潮堤や防波堤などの整備
5	なりわい	被災した漁港の復旧・整備
6	安全	放射能への安全対策

## 「支える人を支える募金」です。赤い羽根。

●寄付や助成のお申し込みはこちらから  
[www.akaihane.or.jp](http://www.akaihane.or.jp)

●6月1日(金)から第8次の助成応募を受け付けています。締め切りは6月29日(金)

ボラサポ公式 Facebook ページ  
 「ボラサポfacebook」で検索。耳寄り情報を毎日更新中

ボラサポ・メールニュース  
 登録は [www.akaihane.or.jp](http://www.akaihane.or.jp) から

問合せ先  
 中央共同募金会 企画広報部 (ボラサポ担当)  
 TEL: 03-3581-3846 (FAX: 3581-5755)  
 support@c.akaihane.or.jp

## 日弁連3万5千件の法律相談データを発表

### 住民の声を復興政策に活かす

日本弁護士連合会は被災者を対象に行っている無料法律相談の分析結果を発表した。第4次となる今回の分析では、震災後約1年間で寄せられた約3万5千件の相談が対象となった。

相談事例は、不動産賃貸借、住宅ローン、保険等、23に分類され、県および市町村ごとに件数がまとめられた。どの地域でも多かった震災関連法令に関連する相談に加え、福島県では原発関係、津波被害が深刻だった岩手県・宮城県沿岸部では遺言・相続や住宅、事業ローン、都市部では建物賃貸借契約に関連する相談件数がそれぞれ多いなど、住民の抱える課題の地域差が明確に反映される結果となった。

日弁連や有志の弁護士らは、震災直後から電話や避難所等における面談で無料法律相談を実施し、定期的な相談事例の分析結果を発表すると共に、知見を活かした被災者支援に力を入れてきた。これまでに、被災者から多く相談のあった情報をもとめた冊子「復興のための暮らしの手引き」を発行したほか、相談事例のデータを基に、現状に沿った法改正を国に働きかけ、相続や二重ローン問題に関する法や制度の改正についても成果をあげてきた。

情報分析の責任者である日弁連災害復興支援委員会幹事の岡本正弁護士は「今後、分析結果を地域行政に届け、まちづくりに役立てて欲しい」と話す。住民の声をまとめた膨大なデータの、復興計画の立案や推進への活用が期待される。

岡本氏は、相談事例のデータを今後の災害の備えとしても活用できると指摘する。現在進められている防災計画で被害を軽減できても、完全に被害をなくすることはできず、必ず発生する被災者を有効に支援する必要がある。例えば初動でインターネット環境がない場合における行政や金融機関からの基本的な情報提供手段の確保や、生活の再建に必要な情報の選別等を、各自治体が予め実施また

相談事例	内容
工作物責任 相關関係	地震で自宅の屋根瓦が落下し、隣家や隣家の壁や自動車を損壊したが、損害賠償責任を負うのか。
不動産賃貸借	地震で壁にヒビが入ったが、大家と借家人のどちらが修繕する義務があるのか。行政の費用助成はあるのか。
震災関連法令	被災者生活再建支援金をもらうにはどういった手続きが必要か。罹災証明はどのような場合に取得できるのか。
遺言・相続	家族や親戚が何人も亡くなったが、相続人は誰なのか。行方不明者がいる場合には手続きはどうすればいいのか。

### 現在受付中の補助金・助成金情報

●政府「グループ補助金」  
 【対象団体】復興のリード役となり得る「地域経済の中核」を形成する中小企業等グループ。複数の中小企業者から構成される集団であつて、一定の要件を満たす必要あり。詳細はホームページを参照。  
 【補助金額】復旧・整備費の4分の3  
 【提出書類】復興事業計画  
 【応募締切】5月31日  
 【H A】 <http://www.kantei.go.jp/sageai/news/>  
 【問い合わせ】岩手県商工労働観光部経営支援課 TEL 019 (629) 5546 FAX 019 (629) 5549 宮城県経済商工観光部新産業振興課 TEL 022 (211) 2765 FAX 022 (211) 2729 福島県商工労働部産業創出課 TEL 024 (521) 7823 FAX 024 (521) 7935

●第24回NHK厚生文化事業団「わかば基金」東日本大震災被災地支援金部門  
 【対象団体】東日本大震災の被災地に活動拠点が、その地域で福祉活動をすすめているグループ。法人格を有している団体は不可。(NPOは可)  
 【補助金額】1グループにつき、100万円まで。全体で5から7グループを支援

●社団法人社会安全研究財団「東日本大震災特別助成金」  
 【対象団体】岩手県、宮城県および福島県内に所在している公益法人、NPO法人、地域の任意団体。各種条件を満たす必要あり。詳細はホームページを参照。  
 【対象事業】地域安全事業および、現に地域安全事業を行なっている団体の財政基盤を整備する団体基盤整備事業。  
 【補助金額】1事業につき、50万円まで。同一団体からの複数事業の申請を認めず。補助総額は、岩手県、宮城県、福島県の各県で1000万円。  
 【提出書類】申請用紙をホームページからダウンロード。事業ごとに申請書を作成する。

【H A】 <http://www.syaanken.or.jp/topx/higashihon2012.htm>  
 【問い合わせ】財団法人社会安全研究財団 FAX 03 (3219) 2338 E-mail: [tohokujosei@syaanken.or.jp](mailto:tohokujosei@syaanken.or.jp)

## 石巻市民主体の協議会による まちづくりモデル

### 「コミュニティ誌で進捗共有し 住民の一体感を醸成

宮城県石巻市はこれまで地域の住民を中心に、行政・専門家巻き込んだ協議会を発足し、復興整備にあたり、「コンパクトシティいしのまき」街なか創生協議会」は昨年12月20日の発足以来、防災意識が高く安心して暮らせるだけでなく、石巻が持つ景観・歴史・文化の薫るまちづくり・まち並みづくりを推進するを目的として活動している。

具体的には、おもに景観デザインの見直しから話し合う「街並み部会」、石巻のまちに合った再開発を推進し、計画間の情報交換・調整を図る「事業推進部会」、石巻の暮らしや地産品の中から「暮らし」を持つものを発信する「インフォメーション部会」の3部会から構成され、市、県、国との積極的な意見交換を図りながら進めている。WEB

### まちなかたより

「自分事」として取り組みたい。復興の道、その過程を見守り続けたい。

夫をしている。住んでいる人が本気になる、一人ひとりが「自分事」として取り組みたい。復興の道、その過程を見守り続けたい。

また震災後、延べ25万人が訪れたというボランティアの方々の力、あたたかい気持ち、一つの文化にしていけるための方法も議論、「石巻」

### まちなかたより

「コンパクトシティいしのまき」街なか創生協議会」発行「まちなかたより」第4号

「まちなかたより」第4号

## 原発事故損害賠償・自主避難・福島で暮らしていくこと... 法律の問題に無料でお答えします。

### 無料 要予約 定期開催

#### 5月の法律相談会

8日(火) 13:30~15:30 福島市(ふみだす生活サポートセンター)  
 25日(金) 13:30~15:30 いわき市(会場未定)  
 27日(日) 13:30~15:30 福島市(ふみだす生活サポートセンター)

アドバイザー : 福島の子どもたちを守る法律家 ネットワーク(SAFLAN) 弁護士  
 申込 : 左記の電話・ファクス・Eメールにてお申込みください。

〒960-8068 福島県福島市太田町17-8 アーバン横山L1階  
 TEL: 024-573-2732 FAX: 024-573-2733 E-mail: [fukushimarenpuku@gmail.com](mailto:fukushimarenpuku@gmail.com)  
 URL <http://f-renpuku.com/>

市民団体・行政・企業をつないで、ふくしまの復興を加速させます。

## ふくしま連携復興センター

### 浪江町の復興ビジョンに盛り込まれた復興の目標と取り組み

	短期ビジョン (2014年3月まで)	中期ビジョン (2016年3月まで)	長期ビジョン (2021年3月まで)
すべての町民の暮らしの再建	「避難生活の改善」 ①健康管理の強化と徹底 ②損害対策の充実 ③町外でのコミュニティづくり、住まいの改善 ④事業再開や就労支援による働く場の確保 ⑤避難先自治体との連携強化 ⑥町民と町民・ふるさとをつなぐ「絆」の維持 ⑦子供たちを支える教育環境の充実	「生活の安定」 ①町外のコミュニティ充実、暮らしの安定 ②町外での事業再開、就労支援	「すべての町民の幸せな暮らし」 ①すべての町民の生活の安定
ふるさとの再生	「ふるさと復旧と復興拠点の確保」 ①放射線管理と低線量地域等での先行除染実施 ②低線量地域等におけるインフラの先行復旧・整備 ③ふるさと再生のための国家プロジェクトの推進	「本格的なまちづくり」 ①本格除染の拡大、山林除染の本格実施 ②インフラ・交通網の復旧・整備、津波被災地対策 ③産業の復興 ④町内に置ける生活関連サービスの回復 ⑤ふるさとでの魅力ある教育環境の整備	「暮らしやすく、若者があつまると元気がふると」 ①高度な医療・福祉環境の整備 ②教育支援の強化と高度な教育環境の整備 ③新たな雇用・観光の場の創出 ④町全体における除染活動の実施 ⑤行政サービスの完全復旧と新たなサービス展開 ⑥災害対策研究施設の誘致・建設と他地域への貢献

### 取材を終えて

#### 見直される「町」や「豊かさ」の定義

今回一連の取材に応じて頂いたのは、浪江町復興推進課の玉川主幹。復興ビジョンの裏に隠された玉川さんと町民たちの「想い」をうかがううちに、こんな質問をせずついおれなかった。

「町とは、豊かさとは、为什么呢？」

「仕事や学校や買い物といった生活の場、目に見える知り合いのつながり、祭りや自然。これら町を構成する要素が、時を経て風土となり文化となり人柄を育て、共有される価値をつくっていく。それらが、町であり、ふるさとというものだと思います。表面的なにぎわいや経済的なものとはまったく違う別の豊かさが、ふるさとはあるのでしょうか。一つひとつ言葉を確かめるように語ってくれた。

震災が無ければ問うことも、気づくこともなかったかけがえのない大切なものが、玉川さんの語るふるさとにはあった。町や地域、豊かさについて、被災地のみならず、日本中の人々が考えていく必要があると感じた。

あなたにも助けられる人がいる。あなたにもできることがある。

**skillstock** ボランティアつなぎサービス



あなたの「できる」を登録すると・・・  
自分のスキルに合った  
ボランティアが表示されます

個人のスキルや得意なことを生かして社会を良くする。そんな世の中を目指して、skillstockはスタートしました。現在、1000人から1600件の「できること」が集まっています。

<http://skillstock.net/>

に協力して取り組んでいく必要性が強調されている。そして、主役である町民一人ひとりの役割は、先人たちが大切に守り育んできたふるさとを再生させることとして記載された。事業者や行政の垣根を越えて協力し、主体的に復興に取り組むビジョンとなった。

秋の復興計画完成へむけ詳細設計へ  
浪江町では、今回策定されたビジョンや自由意見を含めた全てのアンケート結果を、浪江町職員に配布される



決定した復興ビジョン(66P)、子供アンケート結果(80P)、町民アンケート結果(106P)。これに自由記入回答結果も含めた膨大な資料が全町民に配布される

果を資料にまとめ、2万人近い全町民へ配布するという。必要経費も多額となるが、町民たちに皆が悩まながらも進めているプロセスを共有するとともに、それぞれの意見尊重する姿勢を伝える必要性は高い。また今後は、約4ヶ月かけて策定されたビジョンを、より具体的な計画へ落とし込み、秋の町議会で承認を目指す。ビジョンを策定した35名の委員会を拡大し、産業復興や住宅・インフラ整備と

いったらつ程度のセクターに分類した上でそれぞれ10人規模の部会をつくりながら、新たなアクターを巻き込み、今一度住民の意見を吸い上げ計画を策定していく予定だ。

策定された復興ビジョンでは、「すべての町民の暮らしの再建」と「ふるさととの再生」の2つの分野における取り組みが、短期(14年3月まで)、中期(16年3月まで)、そして長期(21年3月まで)の3段階に分けて分類されている(左表)。

特徴的なのは、個人々の多様な考えを尊重するという基本方針のもと、町への

浪江町は、一自治体の復興ビジョンとしては例外的に、国や県などの責任や役割についても記載した。原発事故の影響は被災地域に限ったものではない点や、国策として原子力発電を推進してきた経緯を言及、国は国土政策、制度や財源賠償に関して、県は原発事故被災地における広域的な課題とニーズ把握や意見調整に関して、浪江町は町民の生活や文化、コミュニティの尊重に関して、それぞれ役割を明確化している。また問題解決に向け、互い

帰還する人も少ない人も町民一人ひとりの幸せを追求



策定された復興ビジョンでは、「すべての町民の暮らしの再建」と「ふるさととの再生」の2つの分野における取り組みが、短期(14年3月まで)、中期(16年3月まで)、そして長期(21年3月まで)の3段階に分けて分類されている(左表)。

浪江町は、一自治体の復興ビジョンとしては例外的に、国や県などの責任や役割についても記載した。原発事故の影響は被災地域に限ったものではない点や、国策として原子力発電を推進してきた経緯を言及、国は国土政策、制度や財源賠償に関して、県は原発事故被災地における広域的な課題とニーズ把握や意見調整に関して、浪江町は町民の生活や文化、コミュニティの尊重に関して、それぞれ役割を明確化している。また問題解決に向け、互い

### 【特集】

## 地域住民主体のまちづくりを考える

# 浪江町

# 復興ビジョンに学ぶ 住民意見の吸い上げ方

4月19日、原発事故の影響で全町避難している福島県双葉郡浪江町は、町議会において同町の復興ビジョンを正式に決定した。町外でのコミュニティ「リトル浪江」づくりをはじめとしたその内容とともに、町民の意見を徹底的に吸い上げたその策定プロセスは、いずれもオリジナルなものとなった。各市町村で住民主体のまちづくりの必要性が叫ばれるなか、一つのモデルとしての可能性を探るべく、町役場の避難先である二本松を訪れた。

「せ」が復興ビジョンとして形となっている。

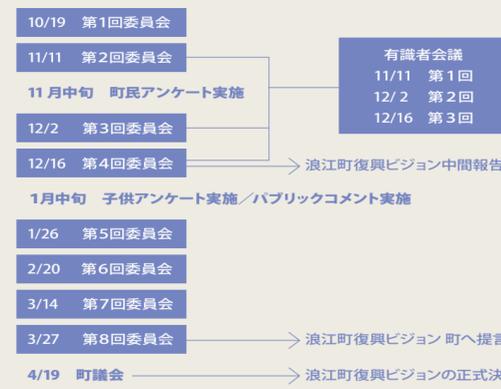
国、県、町、そして町民。それぞれ役割の明確化

### 策定プロセス



復興検討委員会の様子

#### 復興ビジョン策定までのあゆみ



昨年10月に組織された35名からなる復興検討委員会を中心として作成された復興ビジョン。町民の意見を徹底的に吸い上げたその策定プロセスの秘訣は「場づくり」にあった。行政vs町民、若手vs年配者といった対立構造を回避し、町民が主体となることができたポイントを整理した。

## 「知る」という支援がある。

東北復興新聞の制作・印刷・発送は、皆様からの協賛で支えられています。「よきことを、よき人へ」伝えるために、どうぞご支援をお願いします。

- お申し込み方法
- Web : <http://www.rise-tohoku.jp/>
- Eメール : [assist@h-u-g.jp](mailto:assist@h-u-g.jp)
- FAX : 03-6869-0151

**1** 東北復興新聞サポーター 【8,000円/年】  
毎号2部をお届けします。(ご友人・同僚の方にも)

**2** 東北復興新聞パートナー 【30,000円/月】  
毎号100部をお届けします。(会社の皆様どうぞ)



## 復興プロダクト

4



Deer Horn Dream Catcher  
ネックレス

つむぎや

楽しく仕事する場を作れないか? 宮城県石巻市、牡鹿半島で活動するつむぎや

「群生する鹿の角を使い、漁師を支えてきた女性達と何かできないか?集まって

### 関わる全ての人を幸せに

イン事務所 NOGICER と出会う。角を磨き、漁網の補修糸を使い、祈りを込めた

のメンバーがそう考えていた頃に、猟友会会長や、鯨の牙の加工に長けた元捕鯨船乗組員に出会い、材料の調達と技術習得の基礎ができた。だが、試作品はなかなか見えたようにならなかった。「これではない。復興の文脈を超えて、人々に喜んでもらえるものが作りたい」。そして、東京の課題解決型デザイン事務所 NOGICER と出会った。角を磨き、漁網の補修糸を使い、祈りを込めた

Deer Horn Dream Catcher  
ネックレス 2800円 / つむぎや <http://www.ocica.jp/>

今、デザインが生まれた。3月末時点で約500個が売れているが、販売のための営業はほとんどしていない。趣旨に賛同した店が口コミなどで販売を申し出てくれている。1つ売れると1000円が作り手に渡り、200円が女性たちが集まる時のお茶会費や運営費としてストックされる。いい夢を運ぶとされるドリームキャッチャー。その名を冠したネックレスが、関わる人全てに前向きな希望を届けている。



満開の桜に、鯉泳ぐ

岩手県北上市の桜の名所、展勝地。今年の桜は東北の人々の心を和ませ、多くの観光客を呼び込んでくれた。

## 女性社長がビジネス合宿

### 被災地の雇用創出を考える 7月に第2弾

4月13日から泊3日、おもに東京から参加した23名が被災沿岸部を周った。うち18名が女性社長。これは、女性社長「よ」などが企画した「女性社長たちが行く・被災地とともに考えるビジネス合宿」。観光でもボランティアでもない、「被災地の雇用創出のため、新規ビジネスを考える」という目的のツアーだ。



合宿に参加し充実した表情の女性経営者たち

参加者は地元事業者ら15人を訪問し、経験談や教訓、復興への課題をヒアリング。2日目はグループ討論の後、各自が考えた復興

興ビジネスのアイデアを発表し合った。出たアイデアには、「震災を乗り越えた経営者の経験知をWEB講座で有料配信する」など自由な発想が光る。夜は、地元経営者らと居酒屋での懇親会。希望者対象にも関わらず全員が参加し、熱い語

## イベント・インフォメーション

### ●東日本大震災復興祈願花火 全国煙火競演会 (伊達市阿武隈川)

【日時】平成24年6月2日(土) 18:45オープニング、19:15打ち上げ開始、雨天決行【会場】福島県伊達市梁川町阿武隈川河川敷【内容】福島の復興のための全国から花火師が集まり、「子どもたちに笑顔と感動を 扉を開けるその時まで」をテーマに行う花火大会。協賛の申し込みはホームページから。有料駐車場あり。【主催】東日本大震災復興祈願花火実行委員会(特定非営利活動法人東日本復興事務局)【協力】日本煙火芸術協会【お問い合わせ】東日本大震災復興祈願花火実行委員会 TEL:024(927)4514【URL】<http://www.fukkouhanabi.jp/>

### ●障害者も健常者も楽しむ屋外イベント としておきの音楽祭2012 (仙台市)

【日時】2012年6月3日(日)、ストリート演奏10:30~17:00、フィナーレ17:30~19:00(予定)【会場】仙台市内中心部。仙台市市民広場、定禅寺通り、ほか【内容】障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しむ、日本最大規模の心のバリアフリーを目指すストリート音楽祭。【主催】としておきの音楽祭実行委員会 SENDAI【お問い合わせ】としておきの音楽祭実行委員会 TEL:022(265)0980【URL】<http://totteokino-ongakusai.jp/>

※イベント情報随時募集しています。掲載ご希望の方は [press@h-u-g.jp](mailto:press@h-u-g.jp) まで。

「東北復興新聞」を「一緒につくりませんか」のリアルを知り、多くの出会いを得たことに参加者は満足し、帰路についた。アイデアを出して終わらず、現在実際に現地とのやりとりが始まっている。また毎月「復興アイデアを育てる会」と称し、合宿に参加していない人も巻き込んだ議論の場で、引き続き実現性を追求している。(次回は6月7日、都内で開催)。

合宿の成功を受け、第2弾の開催が7月に決定した。今回は男性の参加枠も設けるといふ。問い合わせは(株)コラボラボへ。申し込みは [http://colabolabo.typepad.jp/main/files/joseishacho\\_gattsuripdf](http://colabolabo.typepad.jp/main/files/joseishacho_gattsuripdf) で。お待ちしています。

ゴールデンウィークの連休は東北六県を旅した。三陸海岸から下北半島を抜け、本州最北端は大間崎で鮭を愛で、秋田で比内地鶏を堪能した後、山形で蕎麦をいただき、最後は喜多方ラーメンで締め帰京した。東北の食文化の豊かさと、雄大な自然を満喫させていただいた。

今回の旅で温泉に目覚めた。なんせ、至るところにある。日帰りであれば三百円ほどで楽しめる。特に素晴らしかったのが、青森と秋田の県境にある古遠部温泉。携帯電話も通じず、未舗装の山道を進んだところにひっそり佇む秘湯だ。とにかく湯量が半端なく、溢れ出た温泉成分で宿全体が鍾乳洞みたいになっている。桜もまた見事だった。東北の桜は、長く寒い冬を乗り越えたからこそ、美しく咲く。比喩ではなく、ソメイヨシノは夏の間、翌年の花芽を作り休眠し、一定期間、寒い冬を経ることで休眠から目覚めて開花の準備を始める。桜が美しく花開くには、暖かい春だけでなく、寒い冬が必要なのだ。この国には厳しい冬があり、火山があり、地震がある。同時に、桜が咲き誇り、温泉が身体を癒してくれる。自然は多くの試練と、豊かな恵みを与えてくれている。そんな当たり前のことを、当たり前に思い起こさせてくれた東北旅だった。(T)

<http://h-u-g.jp/>

### NPO 法人 HUG

#### Projects

東北復興新聞の発行による中間支援プロジェクト  
メディア連携による東北スタディツアープロジェクト  
大槌町卒業アルバム復興支援プロジェクト and more...

#### Our Mission

HUGは、世の中を良くするために世界中で頑張っている人や団体を、情報発信等のコミュニケーションの分野で手助けする中間支援組織です。素晴らしい人や取り組みをHUGが媒介となって世の中へ届けることで、人と人が笑顔でつながり助け合う社会の創造を目指します。

#### About Us

NPO 法人 HUG  
東京都渋谷区代々木2-10-9-8F  
代表理事：本間勇輝  
理事：岐部淳一郎、金田喜人  
E-mail: [info@h-u-g.jp](mailto:info@h-u-g.jp)